題目

―副題（無い場合、行を詰める。題目と副題のみ12pt、本文は10pt）―

東北花子1・言語次郎2・東北三郎1,3

（1東北大学・2青葉山大学・3仙台研究所）

【要旨】この行から執筆言語で要旨を書いて下さい（10行以内）\*。

キーワード：要旨末から1行を空け、最大5つを書いて下さい（例：ツツバ語、音韻、言語変化、祖語）。キーワードの下には1行を空けて、「1. はじめに」を書いて下さい。

**1.** はじめに

ここではMicrosoft Wordを用いて『東北大学言語学論集』の原稿を執筆する際の書式について説明します[[1]](#footnote-1)。

**2.** ページレイアウト

以下に説明する書式はこのテンプレートでは既に設定済みですので、ぜひこちらをご利用下さい。ご自身で書式を設定する方は引き続きお読み下さい。

**2.1.** 原稿の体裁

原稿はB5の縦置きとします。［レイアウト］→［ページ設定］→［用紙］タブで［B5］（182 mm × 257 mm）を選択して下さい。

**2.2.** 余白

［レイアウト］→［ページ設定］→［余白］タブの［上］［下］［左］［右］の各欄にそれぞれ［25mm］［25 mm］［22mm］［22 mm］を入力します。

**2.3.** 文字数と行数

［レイアウト］→［ページ設定］→［文字数と行数］タブで［文字数と行数を指定する］にチェックを入れ、［文字数］を［35］字、［行数］を［35］行に設定します。

**2.4.** ヘッダーとフッター

　ヘッダーの文字には［9pt］を使用し、左側には筆頭著者の姓を書いて下さい。共著の場合は「後藤ほか」のように筆頭著者の姓に「ほか」を続けて下さい。英語で執筆の場合は「Gotoo et al.」のように英語で書いて下さい。ヘッダーの右側には執筆言語にかかわらず「東北大学言語学論集 | Tohoku Studies in Linguistics (xx)」と書いて下さい。

**3**. 全体のスタイル

**3.1.** 題目・副題のスタイル

論文の1ページ目上部には論文題目を書きます。日本語論文の題目および副題には［MSゴシック］の［12pt］を用いて下さい。副題（任意）は題目の次の行に書き、両端には全角のダッシュ（－）を置いて下さい。

英語論文の題目および副題には［Times New Roman］を用い、題目・副題ともに［12pt］とします。題目および副題の最初の語と内容語は大文字で始め、題目と副題の間には半角のコロン（:）を挿入して下さい。

日英語以外の言語で執筆する場合は、それぞれの言語で一般的に用いられるフォントを使用し、上記の日英語の場合と似た体裁になるようにして下さい（以下同様）。

配置は［中央揃え］にして下さい。

**3.2.** 氏名（所属）のスタイル

副題の次には本文フォントと同じサイズ（10pt）の空白行を1行入れ、氏名を書きます。氏名の下には所属を書き、丸括弧に入れます。共著の場合は本テンプレートの1ページ目に例示した形で、著者全員について書いて下さい。フォントは［10pt］、配置は［中央揃え］、［行間］は［固定値］［15 pt］です。

**3.3. 【**要旨】と【キーワード】のスタイル

（所属）から1行空け、執筆言語で【要旨/**Abstract**】を書いて下さい。日本語の場合は［MS 明朝］を、英語の場合は［Times New Roman］を用いて下さい。フォントは［10pt］です。キーワード/**keywords**も要旨と同じフォントおよびサイズを用います。要旨およびキーワードの［行間］は、［固定値］［15 pt］です。

**4.** 本文のスタイル

**4.1.** 見出し

　見出しは、日本語の場合は［MSゴシック］を用いて下さい。英数字の場合は［Times New Roman］を用いて**太字［Bold］**にして下さい。執筆言語にかかわらず番号と見出しの間には**半角1字**のスペースを入れて下さい。

**4.2.** 本文のフォントとサイズ

本文の日本語には［MS 明朝］を用い、読点と句点にはそれぞれ「、」「。」を用いて下さい。英数字には［Times New Roman］を用いて下さい。いずれも［サイズ］は［10pt］です。

**4.3.** 例文とグロス

　例文と本文の間は1行空け、例文は通し番号をつけて左揃えで書いて下さい。グロスはLeipzig Glossing Rulesに従って下さい。

**4.4.** 脚注

脚注は各ページの末尾に9ptで入れます。科研費補助金等の助成を受けた旨を記す場合や謝辞を述べる場合は、1ページ目【要旨】の最後の文末にアスタリスク（\*）を付し、脚注の位置に記述して下さい。

**5.** 参考文献と論文末の題目・氏名・要旨

　論文末には、①参考文献、②題目、③氏名、④要旨をこの順で書きます。このうち、①参考文献 については次の見出しに示す方法で書いてください。

論文末の②題目、③氏名、④要旨は、執筆言語が英語の場合は日本語で書いて下さい。それ以外の言語の場合は英語で書いて下さい。インデントは不要です。②題目は参考文献から1行空けて書きます。書き方は先に示した3.1を参考にし、サイズは本文と同じ［10pt］に設定して下さい。③氏名は本文と同じフォントおよびサイズで書いて下さい。④要旨は氏名の次の行に［10pt］を用いて10行以内で書いて下さい。［行間］は［固定値］［15 pt］です。

参考文献

参考文献は本文末から1行空けて書きます。見出しの数字は不要です。参考文献には、本文または注において引用または言及したもののみを挙げて下さい。

参考文献の書き方は、日本言語学会の『言語研究』または日本心理学会の『心理学研究』の書き方指針に一貫して従って下さい。

英語題目と副題（執筆言語が英語の場合、日本語題目と副題。副題は任意）

氏名（英語、ただし執筆言語が英語の場合は日本語）

【**Abstract**】上記題目と同じ言語を用い、10行以内で書いて下さい。本文と同じ［10pt］を使用し、インデントは不要です。

1. \* 助成金を受けた旨の記載や謝辞は要旨の最後の文末に上付きのアスタリスク（\*）を挿入し、この位置に置きます。

 脚注は句点（。）の直前に挿入し、各ページの末尾に［9pt］で書きます。引用のためだけの注はつけないで下さい。 [↑](#footnote-ref-1)